

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300065		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ハーモニー中田		
所在地	福島県郡山市中田町下枝字久保337-1		
自己評価作成日	平成23年11月25日	評価結果市町村受理日	平成24年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成20年に開所し4年目を迎えました。開所当時に比べますと、地域とのより深い交流を取ることが出来ており、施設の認知度も上がっているように感じます。地域行事へのお客様との参加はもちろん、実行委員として運営・会場準備からお手伝いさせて頂く等、昨年同様に地域に根ざした活動を行っております。また、今年度は認知症ケアにおいて地域の資源となれる事業所づくりを目標に、運営推進会議で様々なアドバイスを頂きながら、事業所主体での勉強会を企画するなどの活動に取り組んでおります。
施設運営の面では、今年度は接遇と認知症ケアに力を入れて研修を行っております。お客様の権利擁護、プライバシーの保護について学習を行いながら、施設全体でのケア向上を目標に取り組んでおります。また、ターミナルケアにも力を入れて取り組んでおります。最後の時をご本人らしく穏やかに過ごして頂けるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 運営推進会議の委員や市の協力を得、積極的に関わりを持っている。事業所が地域の行事、地域住民が事業所の行事の「実行委員」を務める等の取組みで、地域の自主防災訓練(事業所を訓練の場所に提供)に参加したり、町の認知症講座の講師役を務める等の交流が行なわれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常日頃より地域密着型事業所としての自分たちの使命を感じながら業務に努めることが出来るよう、毎朝朝礼で理念の唱和を行い共有を図っている。また施設内研修でも再確認と共有を行い、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	地域密着型の理念を掲げ安心できる環境の下、利用者がこれまで培ってきた、家族や地域社会との関係を継続できる支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域町内会に加入し、地区の自主防災訓練や町内のお祭り等に積極的に参加している。今年度は震災の影響もあり、交流の機会が少なくなっているが、来年度に向けての取り組みを進めている。	地域行事の芸能祭・文化祭・運動会・自主防災訓練に参加したり、認知症講座の講師を務めるなどの交流の他、事業所の行事にも地域住民を招く等の交流が行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に事業所の理解を深めていただくとともに認知症ケアについて学んでいただく機会づくりを目指し、事業所主催での学習会を企画する等積極的な活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、事業所での取り組み内容や課題等、事業所内の情報公開を行っている。会議メンバーから頂いた提言を、事業所の運営とサービスの向上に活かしている。	事業所の主な運営内容の報告と直面している課題についての意見交換や地域行事の情報提供等が行なわれ、運営に多く活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より事業所の情報をお伝えし理解を得ている。震災の際には断水への対応や食材の調達の面でご協力いただく等良好な関係作りが出来ている。	介護保険関係の手続きは市役所本庁へ出向くが、その他の相談・連絡は、町の行政センターが担っており、日常的に行き交い協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束予防委員会を設置し、日々の業務の中で身体拘束が行われていないか検討を行っている。また、施設内研修にて具体的にどのような行為が身体拘束に該当するかを検討し、不適切な行為を一つでも減らしていくことが出来るように職員間で周知している。	職員は事業所内外で研修を積んでいる他、内部に身体拘束予防委員会が設けられており、拘束の弊害を理解し、拘束を行わないケアを実践している。言葉に依る行動制限を無くす取り組みも行なわれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修担当職員の指導を受けながら施設内研修を定期的実施し、高齢者虐待防止への理解を深めるとともに、日頃の自分たちの業務内容や自宅でのお客様・家族様の様子に問題はないか、活発に意見を出し合うことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人の意思決定や意向、苦情等を職員が代弁出来るように、お客様担当職員を中心としてご本人・家族様とのコミュニケーションを深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には事業内容について詳細に説明を行い、ご本人及び家族様が納得出来た時点で契約を行うように努めている。また、契約終了となる際にも、スムーズに次のサービスへと引き継ぐことが出来るように他事業所職員との連携を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎回の面会や年1回開催される家族会にて家族様の意見・要望の聞き取りを行っている。また、年に1回の事業所アンケートを実施し、頂いた意見を職員会議や運営推進会議にて報告・検討し、事業所運営に反映できるように努めている。	介護の面で意見が出されたのを契機に利用者のサービス内容を網羅した設問内容のアンケートを実施し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議では職員の意見や提案が自由にでており、業務の改善・施設運営に活かされている。また、管理者・リーダーは職員との個別面談を行い、更に職員の思いを汲み取ることが出来るように努めている。	職員の意見を聞き取る機会は、毎月の職員会議と年2回実施される法人の個人面談がある。他に、日常的な会話の中からも意見が吸上げられ運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人代表者は、日頃より職員が意欲を持って働くことが出来るように、各事業所を頻回に訪問する等現場の状況把握に努めている。また、資格取得に向けての惜しみない支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は独立部門として法人研修コーディネーターを配置する等、管理者・職員が施設内外の研修に積極的に参加できる仕組みづくりを行い、実践をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で運営している同事業所管理者との研修を年4回実施し、運営や業務内容の意見交換を行う機会づくりの支援を行っている。また、県小規模多機能連絡会の役員として県内の各事業所との交流を図ることが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前には、ご本人・家族様との十分な話し合いを持ち情報の把握に努めている。またその際得た情報を職員間で共有し、ご本人が安心して事業所でのサービスを受けていただくことが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様からの要望や情報も大切に、ご本人が安心してサービスを開始することが出来るよう施設見学を行い、事業内容が理解頂けるように努めている。また家族様の思いに共感する姿勢を持ち、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査の段階から、お客様、家族様のアセスメントをしっかり行い、必要なサービスをカンファレンスにて見極めるよう努めている。また、他のサービスの必要性についてもカンファレンスにて検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、お客様から「生活の知恵」を教わりながら、食事の支度や調理、掃除や買い物等を一緒に行いながら、お互いに支えあって暮らしていく関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とはお客様担当職員を中心に積極的な連絡を取り合っている。お客様・家族様が安心してサービスをご利用いただくことが出来るように、お互いの立場を尊重し、よりよい関係が継続できるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様が大切にしてきた馴染みの場所や友人、場所・病院などとの関係が途切れないように努めている。地域の文化祭や芸能祭など積極的に参加し、地域との絆づくりに努めている。	利用者の馴染みの関係の継続支援に努めている。また、地域の行事などに積極的に参加する等、新たな馴染みの関係を築く努力が行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係性をカンファレンスにて情報収集し、お互いが良好な関係で生活を送ることが出来るように配慮した環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族様やご本人に面会を行い、必要に応じて相談援助が出来る関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の日頃の様子から意向の把握が出来るように努めている。またお客様担当職員を中心に全スタッフより情報を収集し、ミーティングや職員会議等での周知が出来るように努めている。	利用者の思いや意向は担当職員を中心に個別記録表を作り書き留め、それらの内容はモニタリングや介護計画の見直し時に活用されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人より頂いた情報にあわせてご家族様からも情報収集を行い、ミーティング等で情報を共有しながら、これまでの暮らしを継続することが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様の生活に沿ったケアが提供できるように、24時間シートを作成し、職員全員が統一したケアの提供が出来るように努めている。また日々の関わりや毎月のミーティングにて、お客様からの情報の収集・周知に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様からの情報や生活記録をもとにお客様担当職員が中心となり月1回のモニタリングを行っている。その際に得た情報をミーティングにて報告し、現在のニーズに応じた目標の見直し・計画作成に努めている。	利用者・家族の意向を基に全職員の気付きやアイデアを活かし、利用者のニーズや身体機能に即したケアプランの作成が行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録用紙の見直しを検討しながら、より記入しやすく情報が取りやすい記録作成に努めている。また、プランを意識しながら記録の記入が出来るような仕組み作りに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や定期受診の付き添い、体調不良時や緊急時の対応など要望・状況に応じて柔軟に対応が出来るように努めている。また、お客様、家族様が気軽に相談しやすい雰囲気作りを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練や事業所での行事の際には地域の方々にも参加頂きご協力を頂いている。また、地域ボランティアの受け入れを積極的に行い、地域の方々との交流が図れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を行い、緊急の場合にも迅速に対応できるように努めている。往診対応のお客様に関しては、往診結果について看護職員より家族様に報告し、情報の共有に努めている。	利用者の希望するかかりつけ医の受診の支援をしている。受診は家族対応を基本としているが、利用者の状態によっては職員が同行する場合もあり、双方で情報を共有している。医師の往診もあり、適切な医療が受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は常に介護職員との綿密な連携を図り、お客様が適正な対応を受けることが出来るように努めている。また、お互いが情報を出しやすい関係性を保つことが出来るような環境作りに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはご家族様、病院関係者との連携を図り、早期の退院・退院後のスムーズなサービスの再開に向けた対応を行っている。退院前の病状説明には可能な限り家族様と一緒に参加させていただくなど不安の軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所が対応出来る看取りに関して家族会や担当者会議の折に家族様にご説明を行っている。実際に看取りを希望される家族様には指針内容に沿って十分な説明を行い、同意書により同意を得ている。また職員の不安軽減のため施設内研修にて看取りに関する勉強会を随時行っている。	利用時に重度化や終末期に向けた事業所の指針を説明し、看取り介護が必要になった時点で同意書を取り交わしている。終末期に向けた対応は研修会等を通して全職員が知識を広め、看取りの実践に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員にご協力頂き、定期的な救急救命訓練を実施したり、施設内研修において看護職員を中心に緊急時の対応に関する勉強会を開催する等、職員のスキルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は消防諸立ち会いの総合訓練を行い、専門的指導を頂きながら、防災に関しての意識を高めるよう努めている。また、地区の自主防災訓練にも積極的に参加し、地域と連携しながら安全に避難が出来る仕組み作りを行っている。	年2回の総合訓練のほかに事業所独自で毎月災害時対応の訓練を実施している。地域の防災訓練にも参加している。さらに事業所の避難訓練には地元住民の参加があり協力体制が確立されている。災害時の非常食等も備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保には十分な配慮をし、お客様お一人おひとりを尊重した声掛け・対応に努めている。マニュアルを使用した研修や、法人主催の接客研修にも積極的に参加し知識を深めている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を損なわない対応を心がけており、言葉かけもやさしく丁寧である。全職員が個人情報に関する守秘義務についても理解し実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様お一人おひとりの意思表示能力に応じて思いや希望を汲み取り、少しでもその希望が実現出来るように努めている。買い物や地域行事の参加、自由な時間の過ごし方等希望に沿って柔軟に対応が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常日頃よりお一人おひとりの希望やペースに応じたサービスの提供に努めている。24時間シートを活用し、お客様の希望が職員に周知され統一したサービスが提供できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様らしいおしゃれが出来るように配慮を行っている。お客様と一緒に今日着る洋服を選んだり、外出の際にはお化粧品をお手伝いさせて頂くなど、ウキウキする気持ちを持って頂けるように支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事をより楽しんで頂けるように献立表にお客様の好きなメニューを取り入れたり、調理にも参加頂いている。また、食事で季節を感じて頂くことが出来るような工夫をし、職員も一緒に食卓を囲みながら和やかに食事を行っている。	食事の準備・片付け等ができる利用者は職員と共に行っており、職員は支援しながら一緒に食事をしている。献立は利用者の希望を多く取り入れ、食事が楽しいものとなるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別生活記録に食事・水分摂取状況を記録し、健康・栄養状態の把握に努めている。摂取量や食事形態に関しては主治医と連携を取りながら必要な栄養が摂取できるように支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の衛生保持に努めている。ご本人が十分に行うことが困難である場合には、職員が一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をもとにご本人の排泄パターンの読み取りを行い、ミーティングにて検討・周知を行っている。出来る限りトイレでの排泄支援に努めるとともに、自尊心や羞恥心に配慮した案内を心掛けている。	トイレでの排泄を基本に支援しており、利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限り自然排泄が出来るよう、十分な水分摂取が出来るようにお客様の嗜好に合わせた飲み物の提供を行っている。また食前体操など体を動かす機会づくりに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人おひとりの希望に合わせてご案内が出来るように努めている。また入浴の時間を楽しんで頂けるように入浴剤を使用したり、季節に応じて菫蒲湯やゆず湯を提供するなど、より気持ちよく入浴頂けるように努めている。	希望にそった入浴の支援をしている。入浴拒否者には清拭、足浴等に対応しているが、週2回～3回は入浴できるよう支援している。大浴槽と個浴の2ヶ所の風呂をその日の気分によって使分けている。また、機械浴の設備もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活リズムを崩さないように配慮しながら日中の休息時間を取っていただいている。午後のレクリエーションでは体を動かす機会づくりも行い、程よい疲れで安眠できるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員を中心に、安全な服薬管理・内服の介助に努めている。処方箋を個別ファイルに挟み、常時確認が出来るようにしている。受診により変更が生じた場合には、申し送りノートに記載し情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人が生きがいを感じながら生活を送ることが出来るように、能力に応じた役割づくりへの支援を行っている。調理や掃除、洗濯物たたみや裁縫など今まで行ってきた作業を中心に取り組んでいただくよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は震災の影響もあり、外出の機会づくりが困難な中、行事担当職員が中心となり近隣のドライブを企画しお客様に楽しんで頂けるよう支援を行っている。来年度は例年通りの遠方へのドライブを、家族様と相談しながら企画していきたい。	季節にもよるが、散歩や日光浴を日課として支援している。週1回は利用者の買物の日を設け、近くのスーパーへ出掛けている。又、全利用者でのドライブ等の外出の機会も設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭を所持し、自由に使用されているお客様はいらっしゃらない。今後お客様の希望、能力に応じて家族様と十分な話し合いのもとにお金が使用できるように検討していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が自宅や親戚、友人へ連絡を取りたいと希望される場合には、リビングや事務所においてある電話で、気兼ねなく連絡を取って頂けるように配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域に馴染んだ事業所となるよう、木造の古民家風の作りとなっており、お客様に居心地のよい、落ち着ける空間になっている。また、季節感のある作品を展示したり、植物を活けたりと四季を感じて頂くことが出来るような環境作りに努めている。	共有空間は広く、空調も適切に管理されており、居心地の良いものとなっている。日中は利用者のほとんどがリビングで自由に過ごしている。併設の事業所の利用者も自由に行き来し交流している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは特に席を固定せず、自由に気の合うお客様との交流が図れるように努めている。また併設のグループホームのお客様とも自由に交流が図れるように行き来しやすい環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	居室は個室対応となっており、室内でのプライバシーが守られるよう配慮を行っている。各居室はご本人が居心地が良いように、家具や部屋飾りを居室担当職員が中心に、家族様とご相談をしながら位置を考えている。全室はき出しの大きな窓があり、明るく季節を感じる事が出来る他、災害時の避難経路にも活用している。	利用者が使い慣れたものを自由に持ち込み、それぞれが個性的な居室となっている。ほとんどがベット使用となっているが、マットレスにふとんの利用者もいる。また、利用当初持ち込んだ品も利用者の状態によって不必要になったもの等は家族の協力を得て入れ替え、利用者が快適に過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように暖簾を設置したり、下駄箱の位置を固定して自分で出し入れして頂く等、お客様が出来るだけ自立した生活を継続していくことが出来るように配慮している。		